

合同教育研究会議（2月13日開催）議事概要

【公開版】

1 開催日時

平成25年2月13日（水）13:00～13:20

2 場所

本部棟特別会議室

3 出席者

中村学長、佐々木副学長、瀬川副学長兼事務局長、齋藤教育研究支援本部長、石堂学生支援本部長、武田看護学部長、遠山社会福祉学部長、渡邊ソフトウェア情報学部長、豊島総合政策学部長、千葉盛岡短期大学学部長、植田宮古短期大学学部長、石橋国際文化学科長

(事務局)

鈴木教育研究支援室長兼地域連携室長、寺本学生支援室長、宮野企画室長、稲森宮古事務局長
高橋企画課長、菊池課長、鈴木主査

(欠席)

佐々木生活科学学科長、宮沢経営情報学科長

4 会議の概要

【議事】

(1) 社会福祉学部の学科名称の変更等について

- ・ 遠山学部長が資料に基づき説明した後、原案どおり承認された。

《主な発言等》

旧学科在籍の学生が留年した場合について質問があり、学生が卒業するまではその課程は開いておき、対応するとの回答があった。また、資料1pの表中、誤植を訂正することとされた。

【その他】

(1) ソフトウェア情報学部 新カリキュラムにおける問題論的アプローチ科目の考え方について

- ・ 齋藤本部長が資料に基づき説明した。

《主な説明》

- ・ ソフトウェア情報学部から書面（資料）が提出され、教務・FD委員会や本部等で検討した。学部でそれぞれカリキュラム改定作業を進めており、本来ならばそれに併せて問題論的アプローチ科目の改革を行うべきであったが進まなかったこと、また、全学の基盤教育の方針が定まっていないこと、共通教育のこれまでの経緯と今後の展開、学部の基盤教育との整合性等様々問題がある。現在は、各

学部の専門科目に入るにあたっての導入教育、初年時教育の形での教育が行われているが、今後、全学の教養科目をどう改定していくかという方針、開学時からの単位数を再検討しなくてはいけない等の様々な課題がある。このような課題を検討し、調整せざるを得ないため、ソフトウェア情報学部の新規に設ける科目については、130 単位を超える卒業単位数になるが現在のままの問題論的アプローチ科目の単位数についてご理解願いたい。今後、問題論的アプローチ科目については、来年度設立する高等教育推進センターにて基盤教育の方針等も含めて検討されることとなる。

《主な発言等》

ソフトウェア情報学部としてはこの結果を重く受け止めているが、今後、全学共通科目について高等教育推進センターで検討される際に、基盤教育と各学部の専門教育との接続、すみ分けも視野にいられて検討してほしいという意見があった。なお、ソフトウェア情報学部で来年度開講する「スタディスキルズ」と「キャリアデザイン」について、問題論的アプローチ科目を膨らませてやるのではなく、専門的に学部として開講する科目になるのかという質問があり、ソフトウェア情報学部の卒業生が就職する際に必要なスタディスキルズ、キャリアデザインであり、全てが他学部の学生にあてはまるものではないこと、今後、問題論的アプローチ科目を高等教育推進センターで検討される際に、各学部の専門性とつながる形のスタディスキルズやキャリアデザインを考えてほしいという意見があった。